上町台地 今昔フォーラム VOL.18　2022年秋の上町台地 トークライブ

U-CoRo Step 2 壁新聞プロジェクト関連イベント

四天王寺門前から今に続く、説経節・絵巻等の背景を読み解く

成長や再起を支える物語はなぜその”場”や”道行”を必要としたのか？



▲「上町台地今昔タイムズ」第16号

その昔、動乱の世を生きた人々は、救いと再生の物語を求めて、上町台地を行き来しました。「上町台地 今昔タイムズ」vol.18では、中世の四天王寺を象徴的な舞台の一つとした「しんとく丸」や「さんせう太夫」等の物語を入り口に、説経節に始まり、能や浄瑠璃や落語等々、人々に求められ、さまざまな芸能の姿を借りながら、時代を越えて復活や再生の物語を共有してきた、都市の文化のありように注目しました。

今、再び、大きな社会の変化の渦中にあって、人々の痛みに寄り添い、直面する格差や分断、孤立の闇を越え、成長や再起を支える、物語や“場”や“道行”の文化が必要とされているのではないかとの想いを新たにしています。

そこで、2022年秋の上町台地 トークライブでは、四天王寺が重要な舞台として描かれた、中世・近世の説経節や絵巻等を手がかりに、救済・復活・再生の物語群はなぜ生まれたか、日本仏教美術史がご専門の 一本 崇之さんをゲストにお迎えして読み解いていきます。

時代を越えて、社会のダイナミズムを支えるために欠かせないものは何なのか、歴史と今をつなぎ、これからの都市とコミュニティを考える際の、手がかりの一つとなればと願っています。

＊「上町台地 今昔タイムズ」や関連フォーラムのドキュメント・レポートのバックナンバーは、ホームページ「大阪ガスネットワークCEL」「U-CoRo」で検索してご覧いただけます。



一遍上人が衆生済度の念仏札を民衆に配り始めたのが四天王寺の西大門の前（「一遍聖絵」模写本、巻2★）

■開催日時：2022年11月8日（火）18：30～20：45頃

■LIVE会場：大阪ガス実験集合住宅NEXT21　2階ホール（大阪市天王寺区清水谷町6-16）

■開催・参加方法：会場（参加人数限定）＋オンライン（Zoom）LIVE配信

※なお、後日視聴希望の方向けに、開催後1カ月間限定の録画配信予定（要申込）。

■定　員：会場 30名（申込先着）・オンライン 100名程度（要申込）

■プログラム（予定）・出演者：

18：30～18：35＝開会・スケジュール等のご説明

18：35～18：50＝プロローグ　U-CoRoプロジェクト・ワーキング

「上町台地 今昔タイムズ」vol.18から 物語の系譜を俯瞰する

18：50～19：50＝スペシャルトーク

「四天王寺という”場”

―説経節や絵巻にみる救済・復活・再生の物語とその背景―」

ゲストスピーカー：**一本 崇之**（大和文華館 学芸部係長／四天王寺 特別調査員）※（敬称略）

20：00～20：45＝ダイアローグ（ゲストスピーカーとの対話・質疑）

「時代を越えて都市に求められるもの

～弱者を包摂し逆転を象徴する物語・場・道行の文化から考える～」

進行役：**弘本由香里**（大阪ガスネットワーク エネルギー・文化研究所 特任研究員）

◎**申込方法**：https://onl.la/XbZAJ3Y のフォームからお申込みください（QRコードからでもアクセスできます）。
オンライン視聴をお申込みの方には後日メールにてLIVE配信視聴用のURLをお送りします。申込締切り11月6日

■**主催**：大阪ガスネットワーク エネルギー・文化研究所（CEL）　■**企画**：U-CoRoプロジェクト・ワーキング

◎**問合先**：CEL 弘本（電話 06-6205-3518）まで

※ゲストスピーカー/プロフィール

一本崇之（いちもとたかゆき）

四天王寺勧学部文化財係主任・学芸員を経て、2022年より現職。

専門は日本仏教美術史。前職では、同寺の文化財調査や展覧会の企画を通して、四天王寺史ならびに聖徳太子信仰美術の研究に取り組んできた。

共著に『聖徳太子と四天王寺』（石川知彦監修、和宗総本山四天王寺編、法藏館、2021年）などがある。



四天王寺西門前で厨子王は阿闍梨に出会う（「せつきやう さんせう太夫」の挿絵、江戸時代の説経正本〈1656年〉の復刻本 ★）



しんとく丸の枕元に観音が現れる（「せつきやう しんとく丸」の挿絵、江戸時代の説経正本〈1648年〉の復刻本 ★）

★印は国立国会図書館デジタルコレクションから